

東日本大震災  
3.11から15年

#わたしの3.11  
15文字で伝えるメッセージ

最優秀賞

“もう”15年、  
“まだ”15年

[モモナ]

## 結果発表

優秀賞

忘れない、忘れたくない、15年 [文]

ユース賞

同い年の震災3.11とともに。 [こっりっ]

入賞(2作品)

忘れぬ思いと教訓、  
備えに変えて [甘栗]

忘れない、  
「記憶」がなくても。

[匿名]

その他の受賞作品はこちら



## 一人ひとりの心に宿る“震災への思い”をつづる

今年で東日本大震災発生から15年目を迎えます。2011年以降、東北の皆さまと共に歩んできたCivic Forceは、一人ひとりの心に宿る“震災への思い”をつづる企画「#わたしの3.11 ～15文字で伝えるメッセージ」を開催しました。

わずか1カ月の間に1,069作品が寄せられ、審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞1作品、ユース賞1作品、入賞2作品を選出いたしましたので発表いたします。

あの日を経験した人も、直接は経験していない人も、世代や地域を超えて、未来へつなげるメッセージをたくさんお寄せいただき、誠にありがとうございました。

なお、最優秀賞、優秀賞、ユース賞の3作品はCivic Forceオリジナルの「防災カード」に掲載させていただきます。

詳しくはP2-3へ ▶



# 東日本大震災から15年 忘れない—あの日の教訓を語り継ぎ、未来に生かす

Civic ForceのNPOパートナー協働事業では、被災地の経験や教訓を他の地域や後世に伝え、次の災害に備える取り組みを応援しています。さまざまな形で震災伝承を行う各団体の活動についてご紹介します。



NPOパートナー  
協働事業

宮城 (公社)3.11メモリアルネットワーク  
**第8回東日本大震災  
伝承シンポジウムを開催**

2026年2月28日、仙台市にて3.11メモリアルネットワークの主催による、第8回東日本大震災伝承シンポジウム「伝承の思いとチカラを未

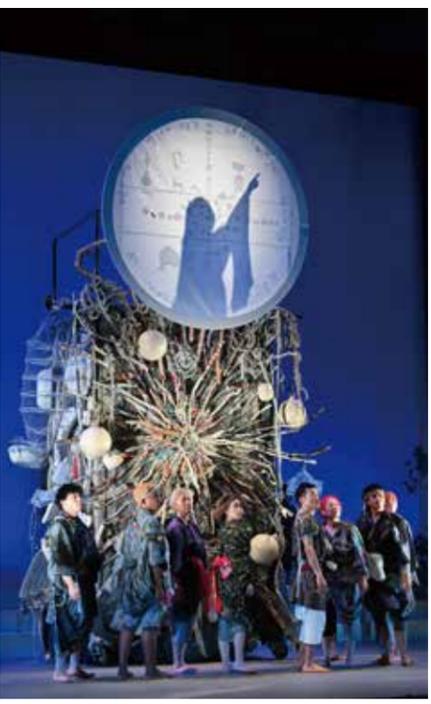


来へ～東日本大震災から15年／これまで・いま・これから」が開催されました。15年を振り返る映像上映のほか、岩手の「津波甚句※」や宮城の「防災紙芝居」、Civic ForceのNPOパートナー協働事業でもある富岡町3・11を語る会(福島)の「手話による語り部」など、多様な伝承手法が実演を交えて紹介されました。パネルディスカッションには内閣府防災担当者に加えて、Civic Forceのパートナー団体である大熊未来塾代表の木村紀夫氏らが登壇。世代交代に伴う葛藤や官民連携、学校現場での課題など伝承継続に向けた議論が交わされ、次世代へどのように伝承をつないでいくかを展望する場となりました。

※岩手県三陸地方などの被災地において、過去の津波の教訓や避難の教えを歌に乗せて後世に伝える伝承歌

岩手 (一社)三陸まちづくりART  
**国際共同制作 民俗芸能舞台作品  
『髪長姫』を上演**

3月1日、三陸まちづくりARTは、国際共同制作による民俗芸能舞台作品『髪長姫』を陸前高田市で上演しました。本作は東日本大震災後、被災地に寄り添い、芸能を学んだアーティストたちが、三陸に伝わる「龍神伝説」をもとに、三陸の郷土芸能の伝承者、インドネシア・台湾の仲間とともに創作した壮大な歌舞劇です。制作過程では出演・衣装装飾ワークショップも行われ、地域の子



ども達が舞台に参加。アジアの民俗芸能に不可欠な“竹笛”を共通テーマに据え、災害、海洋ごみ、少子化、文化継承など現代の課題を物語に織り込み、未来へ手渡す「神話」として昇華した新たなアプローチによる震災伝承が実践されました。



全国 RAY of HOPE(100万人の線香花火ナイト)  
**3/11「線香花火ナイト」開催**



「100万人の線香花火ナイト」は、東日本大震災で亡くなられた方への追悼と記憶の伝承を目的に、2011年に始まったプロジェクトです。毎年3月11日と、7月7日の七夕、8月のお盆の夜に、全国の参加者がそれぞれの場所で一斉に線香花火を灯し、大切な人や思い出に寄り添う時間を共有します。3月11日、各地で線香花火のあかりが灯され、離れていても同じ夜空の下で共通の想いを分かち合うひとときを過ごしました。



その他のパートナー協働事業の  
活動報告はこちら



## Civic Forceオリジナル防災カードが完成

「#わたしの3.11 ～15文字で伝えるメッセージ」の受賞3作品を掲載したオリジナル防災カードが完成しました。NPOパートナー協働事業で連携する3.11メモリアルネットワークのスタッフや学生メンバーの制作協力のもと、集合場所や避難方法、緊急連絡先などが書き込める欄のほか、災害用伝言ダイヤルの使い方を掲載。避難時に必要な情報を携帯できる名刺サイズの防災カードは、災害時に冷静な行動を助けるだけでなく、いざというときの対策を家族と話し合う過程で平時の危機管理意識も高まるなど、あらためてその意義が注目されています。



詳細はこちら



## 災害時の女性支援を強化する新たな取り組みを開始 株式会社ハナミスイと協働 フェムテック製品提供へ

Civic Forceは災害時の女性の衛生課題に対応するため、フェムテック製品を展開する株式会社ハナミスイとの協働を開始しました。本取り組みでは、同社のデリケートゾーンに使用できるケア商品を、Civic Forceが被災地での女性支援活動の一環として配布。一部の商品は災害時に備えて、Civic Forceの佐賀県内の防災倉庫に備蓄されます。

災害時には断水や避難生活の長期化による衛生環境の悪化など、特に女性の身体的・精神的な負担が大きくなります。今回の協働は、そうした課題に対し民間企業との連携により迅速かつ的確な支援を届けることを目的としています。

## Column



トイレに流せるミニウェットワイブ「アウトクリア」

## 選手会ファンド ご支援のお礼とご報告



Civic Forceと日本プロ野球選手会が共同で運営する「日本プロ野球選手会災害支援基金(通称:選手会ファンド)」では、2025年12月8日から2026年1月30日までクラウドファンディングを実施し、2,259,000円のご支援をいただきました。また、12月から2月まで4回にわたって実施したチャリティオークションでは、8,209,648円のご支援をいただきました。皆様からのご支援は災害支援活動に役立ててまいります。たくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございました。

## アジアパシフィックアライアンス(A-PAD) 岩佐賞(平和・人権の部)受賞のお知らせ



詳しくは  
こちら



Civic Forceが参画する災害支援の国際プラットフォーム「一般社団法人アジアパシフィックアライアンス(A-PAD)」は、「第7回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞(平和・人権の部)」を受賞しました。

## 2025年度事業報告書と 財務諸表を公表

Civic Forceは2025年度(2024年9月～2025年8月)の事業報告書と財務諸表を公表しました。

詳しくは  
こちら



## 佐賀事務所移転、 FAX番号廃止のお知らせ

Civic Force佐賀事務所は、2026年3月6日より以下の住所に移転しました。また、東京事務所・佐賀事務所ともにFAX番号を3月6日より廃止しました。

**新住所** 佐賀県佐賀市天神1丁目2番55号 1K天神ビル4階

## ふるさと納税 ご支援のお礼とご報告

2025年11月6日～2026年2月1日に実施した佐賀県ふるさと納税クラウドファンディングにて1,559,000円のご支援をいただきました。たくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございました。

## メディア情報

- 03.09 **新聞** 佐賀新聞  
「東日本大震災15年さが 原発事故後、福島から佐賀に移住/痛み共感し 災害支援/復興進む故郷に思い寄せ」
- 03.06 **新聞** 佐賀新聞  
「女性の活躍推進佐賀県会議 第11期ワーキンググループメンバー インタビュー」
- 11.27 **WEB** 女性ヘルスケア市場専門のビジネスメディア「ウーマンズラボ」で紹介  
「ハナミスイ×Civic Force、女性の避難生活の課題に対応 デリケートゾーンケア製品を被災地へ」

## 企業の皆様へ

寄付付き商品・サービスなど  
様々な方法で  
気軽にご支援いただけます!



## 1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力がが必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額(1,000円単位)のご寄付で支えてください(クレジットカードのみ)。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6977180
- ゆうちょ：00140-6-361805  
上記いずれも口座名義は「シヤ）シビックフォース」
- クレジットカード：HP「オンライン募金」より ▶



SNSで最新情報をお届けします

シビックフォース    

ニュースレターのバックナンバーはこちら▼

<https://www.civic-force.org/about/publication.html>

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼

<https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html>